

2013.8.6

# 超高層のまち憂慮

## 武蔵小杉 住民団体が集会

武蔵小杉駅周辺（川崎市中原区）のまちづくりを考える集会在3日夜、同区の市総合自治会館で開かれた。地域住民ら約160人

が参加。専門家による講演会やパネルディスカッションを通じ、超高層マンションの建設ラッシュに沸くまちづくりのありように疑問の声を上げた。

住民団体「小杉・丸子まちづくりの会」と「小杉の再開発これでいいの会」の共催。両会とも小杉町2丁目地区の180戸マンション建設計画に反対、そもそも超高層の建物ばかりを志向するまちづくりや再開発が正しいかを問うため、

集会は企画された。景観と住環境を守る全国ネット代表の口置雅晴弁護士は、長年開発紛争に携わってきた経験を基に講演した。欧米と比べて緩い日本の法規制では苦戦するケースが多いものの、訴訟は無駄ではないとし、「おかしいことはおかしいと言わなければ何も変わらない」と訴えた。

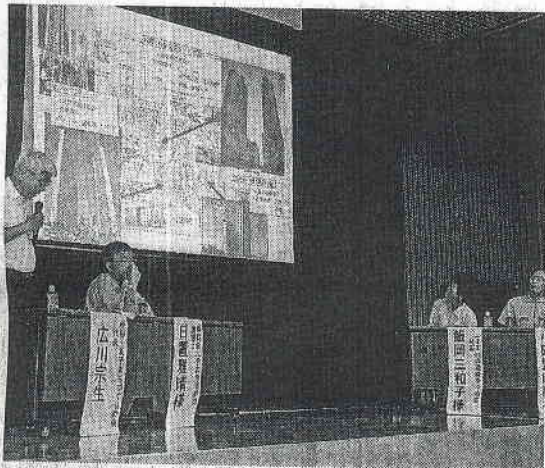
で判断するのはおかしい」と指摘。「行政は法に適合

しているというだけで、住民がどんな影響を受けるのか真剣に考えようとしな

い」と批判した。また、人口減社会を見据えて、「超高層の優良マンションが、いつの間にか幽霊マンションになってしまふ」とまちの将来を憂慮。

「おかしいことはおかしいと言おう」と呼び掛けた。

（高田 俊吾）



武蔵小杉駅周辺のまちづくりの課題について話し合われたパネルディスカッション  
＝中原区の市総合自治会館